C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf園長だより　平成２８年９月号

　園長　平澤　正則

忠犬タローと善隣幼稚園

　本園の前園長（現石岡市長）である今泉文彦先生が著した“あした会えるさ”は読んだでしょうか。

１７年間飼い主との再会を願い（と我々人間は考えています。），住処（東小学校）と石岡駅を１日２往復した“忠犬タロー”の物語です。石岡駅ではぐれる前の，元の飼い主がこの善隣幼稚園の園児であったことからこのタローは本園と深い関係になったわけです。そして，今泉前園長の趣味の一つである“ブラジリアン柔術”の親しい仲間に大島花子さんのご主人がいたことでこのタローの話が彼女に伝わったのだそうです。話に感動した大島さんが“ここで君を待ってるよ”を作詞・作曲し，園では毎年それが歌い継がれるようになっています。９月１日，石岡駅ホームの発車メロディーが新しくなり，２番線（上りホーム）のメロディーがこの曲になりました。その記念に本園の年長児（ゆきぐみ）と年中児（ほしぐみ）の計３２名が駅構内でこの曲を歌ったことはテレビや新聞でご覧になった方も多いようです。本園では今後も“ここで君を待ってるよ”を公の場で歌唱し，永く歌い継いでいきたいと考えています。また，“あした会えるさ”が発行される2012年1月より以前に，本園ではこの物語が“コロとこっこちゃん”という題名で紙芝居化され，子どもたちに読み聞かせが行われてきました。年に何回か子どもたちはこの話を聞いています。この“コロ”が忠犬タローであり，“こっこちゃん”が元の飼い主なわけです。

　この“忠犬タロー”の物語はテレビの中でも紹介されたとおり，過去にＮＨＫや民放テレビ局，週刊誌等で何度も取り上げられた知る人ぞ知る名犬で，当時の東小学校関係者や石岡駅駅員，駅前商店街及びタローが通った沿道に住む人たちにはその存在が広く知られていました。しかし，特別に宣伝されたわけではないので同じ市内在住でありながら知らない方も多いようです。そこで，忠犬タロー顕彰会（会長　小貫敬雄元善隣幼稚園長　事務局長　佐藤信夫善隣幼稚園教育顧問）の人たちが中心になって市やＪＲに働きかけ，来年春ころには石岡駅前に“忠犬タロー”の銅像が建てられることとなりました。市内守横町在住の元小学校長，平田壽一氏作製によるもので全高約2ｍ，幅約170cm，奥行き約150cmで，台座上左右の男女の幼児が中央のタローを囲み，触れあってる様子を示す像です。顕彰会ではこの物語と銅像をもとに広く石岡市全体の動物愛護の精神の高揚にもつなげたいとのことです。なお，銅像建設は寄附により賄うやり方で，現在３５０万円程が集まっていますが，さらに１００万円程必要とのことで，園の関係者である皆様にもできるだけご協力をお願いする次第です。ご意志のある場合は担任の先生か直接園長までお知らせください。1,000円でも2,000円でも100万円でも結構です。

　以上，本園にゆかりのあるこの事実について改めてきちんと知っていただきたいと願い，保護者の皆様にも今回お知らせすることにしました。関心のある方は今泉文彦前園長の書いた“あした会えるさ”（茨城新聞社発行　定価税込1,000円）を是非ご購読ください。漢字にはふりがなもふってあり読みやすいと思いますので，お子様が小学校高学年になる頃にはお子様自身がそれを読むこともお勧めいたします。前園長の印税のためではなく，ご家庭の情操教育のためにと念のため付け加えます。 　 　 （2016.9.9）